

第5回 佐賀県総合運動場等整備基本計画検討委員会 議事要旨

▶開催日時

平成29年2月16日(木) 14:00～16:30

▶開催場所

ホテルニューオータニ佐賀

▶出席者

委員：石橋委員(NPO法人佐賀県放課後児童クラブ連絡会 理事長)、
岸川委員(鳥栖市スポーツ推進委員)、
小早川委員(久光製薬(株) 久光製薬スプリングス 副部長)、
今委員(フリーランス・プランナー)、
坂元委員(佐賀大学文化教育学部 教授)、
竹原委員((株)サガン・ドリームス 代表取締役社長)、
田部委員((株)JTB 総合研究所 コンサルティング第三部長)、
原田委員(早稲田大学スポーツ科学学術院 教授)、
東島委員((公財)佐賀県体育協会 理事長)、

事務局：白井文化・スポーツ交流局長、大川内副局長、原スポーツ課長、
スポーツ課担当

関係課：政策課、財政課、国民体育大会・全国障害者スポーツ大会準備室、
都市計画課、建築住宅課施設整備室、河川砂防課、佐賀土木事務所、
観光課

▶内容

- 1 開会
- 2 あいさつ(文化・スポーツ交流局長)
- 3 説明事項
整備基本計画策定までの議論の流れについて
・事務局より資料1の説明。
- 4 議事事項
佐賀県総合運動場等整備基本計画(素案)について
・事務局より資料2の説明。
・主な意見等については次のとおり

【坂元委員長】

- ・小見出しぐらいまでの説明は行いますが、皆様方で目を通されて、気になるところがあったらぜひ発言いただきたいと思います。また、皆様方が非常に大きく関わっている部分について何かありましたら御意見をいただければと思います。
- ・1つ、2つずつまとめながら進んでまいりたいと思います。
- ・まず、第1章プロローグのところですが、2まで行きましょう。文章だけですが、1が「計画策定の背景」、2が「計画策定の目的」ということになります。体裁等々も含めて、何かございましたら意見をお願いします。
- ・上から9行目、恐らく原田先生も関わっておられると思うのですが、このスポーツの成長産業化の中の官民戦略プロジェクト10、これに括弧はつけなくていいのですか。

【事務局】

- ・国の資料を参考にして記載をしております。

【坂元委員長】

- ・原田委員いかがですか。

【原田委員】

- ・10というのは、10番目のプロジェクトということですよ。10というのは余り意味がなく、これだけ何か浮いています。

【坂元委員長】

- ・厳密に言えば、プロジェクト10の一つとして位置づけてあるというような表現にはなるかと思います。ただ、こういう文言が出てくるので、括弧のほうがいいのかと思っています。

【原田委員】

- ・そうですね。委員長がおっしゃったように、特殊な固有名詞なので、それでいいと思います。

【坂元委員長】

- ・他はいかがですか。
- ・ちなみに、日本再興戦略2016の中の官民戦略プロジェクト10の中で、スポーツの成長産業化が3項目にわたって書き及んであります。スタジアム・アリーナ改革、コストセンターからプロフィットセンターへの転換、それからスポーツコンテンツホルダーの経営力強化、あとスポーツ分野の産業競争力強化と、IT・健康・観光・ファッ

ション等との融合・拡大、こういうような大見出しが掲げられているのが日本再興戦略 2016 となります。

- ・いかがでしょうか。非常に多くの視点から書き及んであるので、特に問題はないかとは思っています。よろしいでしょうか。
- ・続いて、3、4、5をまとめてまいりたいと思います。3「将来に残したいレガシー」として3つ上がっています。それから、4「目指す姿」として2行ですね。それから、5「整備エリア」となっています。いかがでしょうか。
- ・白井局長、もしくは竹原委員にお尋ねですが、4ページの図の「鳥栖スタジアム」は今でも生きている言葉ですか。

【白井局長】

- ・ベストアメニティースタジアムはネーミングライツの名称です。鳥栖スタジアムが正式なスタジアム名になります。

【坂元委員長】

- ・はい、わかりました。
- ・それから、4ページの1行目、「各市町単位では運動場や体育館は偏りなく配置されているが、」のところは「いますが、」ですかね。
- ・他はよろしいでしょうか。このあたりから色彩的にも見やすくなっているかと思えます。4の目指す姿については、2行ですが、よろしいでしょうか。

【今委員】

- ・目指す姿は、ビジョンのことをおっしゃっているのですよね。そうすると、「「スポーツレガシーエリア」となっている。」というのは、過去形で現在もそうなっていることなので、何か意味としておかしいと思います。元々ここで何を言おうとされているか、この文ではよくわかりません。
- ・ビジョンであれば、言葉は多くなくてもいいので、もっとストレートに何を目指しているかというのを端的に書いたほうがわかりやすいのではないのでしょうか。
- ・例えば、上の3番目のところに「さがんレガシー」という言葉が使われていますが、「「さがんレガシー」として定め、大会の準備を進めています。」とあります。そうすると、さがんレガシーをいかに具体化するか、現実化するかということだと思しますので、さがんレガシーとは何ということの説明して、それを絶対的に現実化するのだということ言えばいいのではないのでしょうか。
- ・もう一つは、「「スポーツレガシーエリア」となるように整備を進めていきます。」とありますが、これは進行形ですよ。そうすると、そのスポーツレガシーとなっているというのは整合性がとれないのではないのでしょうか。

【坂元委員長】

- ・エリアとなっているとは、あくまでもイメージで書いたということですかね。
- ・さがんレガシーという言葉が入ってもいいのですか。例えば、「さがんレガシーが定着している」とか、そういうほうがいいのかもしいかな。

【今委員】

- ・スポーツレガシーエリアと混同してしまうので、レガシーの対で、一つの固有名詞であれば、それを明確にしたほうがわかりやすいような気がします。
- ・ただし目指す姿というのは、絶対入れるべきものだと思います。

【原田委員】

- ・それと、この文章に「総合運動場・総合体育館のエリアが」という主語を入れる必要があると思います。あと、文章中に丁寧語が混じっているので、ここは「スポーツレガシーエリアになります」というような表現に変えたほうが良いと思います。
- ・「総合運動場・総合体育館のエリアが、県民の誰もが」と来て、「スポーツレガシーエリアになります」としたほうが良いと思います。

【坂元委員長】

- ・他はよろしいですか。また、何かありましたらお願いします。
- ・それでは、第2章に行きましょう。小見出しの1と2まで一気に行きたいと思います。10ページまでになりますが、いかがでしょうか。見ていただいて、お気づきの点等ございますか。

【田部委員】

- ・6ページの位置図なのですが、この中に「佐賀駅バスセンターから」というように書いてありますが、佐賀駅バスセンターも地図に落としておいたほうが良いのではないのでしょうか。

【坂元委員長】

- ・それに黒字だと見にくいでしょうか。白抜きか何かにしたほうが良いでしょうか。
- ・バスセンターは佐賀駅の中に入りますが、入れておきます。
- ・あとは、図そのものは色合い的に非常にいい感じではしています。

【田部委員】

- ・あと施設の概要の中に、現状の駐車場の表記をした方がいいと思います。

【坂元委員長】

- ・駐車場は、課題の中などで記載はありましたが、現状の中には記載がありませんので、入れるようにします。
- ・よろしいでしょうか。10ページの施設の課題ではいかがですか。皆さん方の意見は集約されているとは思いますが、よろしいでしょうか。
- ・それでは、何かありましたらよろしくお願いします。
- ・次が3と4を一緒に行きましょう。

【今委員】

- ・3ページにあるレガシーの記述と12ページの上位関連計画というのは、非常に密接な関係がある部分だと思います。上位計画のような大きなビジョンや計画があって、現在の施設整備が持ち上がっていると思います。
- ・3ページのレガシーというのが、上位関連計画がないと箱物のレガシーでしか捉えられないので、それはもったいないと思います。
- ・具体的な記述であれば、12ページの佐賀県総合計画、佐賀県スポーツ推進計画、国体の基本構想という3つの計画の部分をみなさんがわかっていると思いますが、私は1ページ目の内容を読んで、佐賀県総合計画というのは6本柱で成り立っているのだとか、その一つに「文化・スポーツ・観光の交流拠点 さが」というのがあるのだと認知できたので、上位関連計画の中に6本柱の項目を記載するなどした方がわかりやすいという気がします。
- ・上位関連計画がなかったら、今の整備計画というのはただの箱物行政と言われるのではないのでしょうか。そういった意味でこの12ページはかなり重要ではないのでしょうか。

【坂元委員長】

- ・この関連性を1ページに書き及んだほうがいいですかと、それとも12ページのままでいいのでしょうか。

【今委員】

- ・内容はきちんと整理されているので、問題はないのですが、3ページ目に何でレガシーという言葉を使っているかという、上位関連計画があるからなんだというように持っていきたいという気がします。
- ・関連づけがはっきりわかるように、もう少し具体的に整理して説明していただければと思います。

【坂元委員長】

- ・スペースもあるので、少し、くどくない程度に直しましょう。

【今委員】

- ・それぞれの計画が県民の皆様にとどれだけ浸透しているのかが、今回の整備計画で重要視される部分ではないかなと思います。

【坂元委員長】

- ・局長、上位関連計画を前に出すことは難しいですか。

【白井局長】

- ・どちらでも問題はありません。

【坂元委員長】

- ・背景の一丁目一番地の1ページに書くと、ちょっとくどくなります。この位置がいいかどうかはちょっと考えなければいけません。

【今委員】

- ・第2章で施設の概要の中に上位関連計画が来ているので、第1章の将来に残したいレガシーの前あたりに来てもいいのではないのでしょうか。計画策定の目的の後に来てても悪くはないような気がします。

【坂元委員長】

- ・これがあってレガシーという言葉が生まれてきているという意味では、このあたりがわかりやすいかもしれないです。ありがとうございます。
- ・他はいかがですか。よろしいですか。
- ・それでは、次は第3章から行きたいと思います。

【原田委員】

- ・13ページの「1. 整備にあたっての基本的考え方」なのですが、1つの文章になっていて、非常に読みにくくなっています。例えば、主語として「本計画は」という感じでしていただくと読みやすくなります。また、あとの文章も3つぐらいに分けていただくと読みやすいと思いますので、ぜひお願いします。それが1点目です。
- ・2点目なのですが、18ページです。委員会で言い続けていた管理棟の合宿所の件が明記されたことは嬉しい限りです。合宿所というのはコストセンターじゃなくプロフィットセンターになりますので、ぜひ改修にとどめず、リノベーションぐらいの記載に

していただいて、一般の観光客や外国人のバックパッカーがふらっと来て泊まれる、そういう施設にしていいただければと思います。

- ・ちょっと話は変わりますが、今年のインバウンドは24%増です。今年だけで2,700万人ぐらいの人が来ていることになるので、今後は地方にやってくる外国人は増えてきますので、10年、20年先のことを考えて、単なる管理棟の合宿所ではなく、ちょっとした簡易宿泊所、あるいはおしゃれなカフェハウスみたいな感じがいいのかなと思っています。こういうのができるとにぎわいが生まれるなと思っています。それが2点目です。
- ・ただ、18ページの一番下の諸室なのですが、例えば、これから国際大会をアリーナで誘致するとすると、ドーピング検査とか、あるいはVIPラウンジが必要になりますので、そういったことも書き加えておいたほうが良いような気がいたします。
- ・それから、19ページの下駐車場なのですが、無料なのですねそれを聞いて驚きました。駐車場が一番プロフィットセンターになるので、最終的には、例えば、電気自動車とか新しいハイブリッドカーなんかを充電できるような、そういう仕組みまでつくられて有料化するのがあるのかなと思います。アリーナができると佐賀市だけでなく九州中からお客さんが来ることになることから商圈が広がります。そういうことを見込んで、駐車場は2階建てぐらいのものを作るなど、できるだけ増やして、それを有料化して収益を上げることが非常に重要ではないかなと思います。

【坂元委員長】

- ・ありがとうございます。

【今委員】

- ・今回の基本計画の素案にはトップアスリートという言葉が随分出てくるのですが、実は提言書の中には、トップアスリートという言葉はあまり使われていないのです。トレーニングセンターとして育てるのであれば、いわゆるトップアスリートのためだけの施設ではなく、いわゆるジュニアレベルからのニュアンスが感じられるといいと思います。トップアスリートというと、オリンピック出場クラスの選手だけというイメージになると思います。
- ・2点目が、これは後のほうにも関わってくるのですが、「全国大会」という言葉が何箇所か出てきます。「全国大会規模」という文言の受けの部分で、22ページに「バスケットボールコート3面の広さとする。」と断言されております。ここは競技団体の方が必ず突いてこられるポイントになるのではないかと思います。全国大会クラスと言っておきながら、何で3面なのということの整合性がとれません。国体も含めて競技団体は必ず4面言ってきます。
- ・バスケットボールコート3面以上の広さにするべきとなっていますが、計画を具体化

する上で、競技団体の皆さんは敵ではなく味方になります。3面の理解が100%にならないと、施設活用が十分に進みません。これはどの施設でも起こります。最後は、広さに押し切られて、観るスポーツの性格を犠牲にしてまでも建物が建っているケースがありますので、ここはしっかりと考えた方がよいという気がします。

- ・加えて、原田先生がおっしゃった合宿所の話は私も大賛成ですが、つけ加えると、先ほどのトップアスリートということ的前提にすると、海外の選手の合宿地、宿泊地としてこの施設を使用するというケースを考えた場合、部屋の広さも考えておいてください。要は高校生サイズにしないでください。そういったこともしっかりと考えなければいけないと思います。例えば、浜松アリーナに隣接した合宿所があるのですが、ここは全く使われていないなどの事例もありますので、本気でやるのであれば、先生がおっしゃられたように、ただの改修ではない方が適當ではないかなと思います。

【坂元委員長】

- ・「3面以上」という表現でもよいのでしょうか。
- ・競技団体からの反発も結構あるとは思いますが。

【今委員】

- ・絶対あると思います。

【坂元委員長】

- ・サブアリーナを入れると、あわせて4面でいいのではという話はしています。

【今委員】

- ・そこも含めて施設全体で使い勝手をどう計画していくかということでもいいとは思いますが。

【坂元委員長】

- ・東島委員、いかがですか。

【東島委員】

- ・さきほど、管理棟の合宿所の話が出ましたが、あの施設は前回の国体の時に、合宿所の形にしました。恐らくここを間仕切りするとか、部屋みたいな形にするというイメージなのですかね。実はあの側には青年会館もあります。

【田部委員】

- ・そこってもしかして大部屋ですか。

【東島委員】

- ・今は大部屋です。

【今委員】

- ・ボート会場でも論議がありました。そこは日本人感覚ではいかなところもあります。住環境は、アスリートにとって非常に重要な部分なので、その売りがインバウンドであり、キャンプであり、合宿というところになります。施設に合宿所を作ることが目的ではなく、合宿所をどう稼働させるのかということを考えれば人は来るようになります。その施設を利用するアスリートが国内から海外から来るためには、その人たちに対応する機能がないと使えないということになります。そうならないのであれば中途半端につくる意味はないのではないのでしょうか。

【原田委員】

- ・多分、この施設をプロの選手は使わないと思います。プロはいいホテルに来てやるので、大学生とか、あるいはインバウンドとかバックパッカーとか、そういう人たちが泊まれるような部屋。二段ベッドが中にせめて入っているような。そういう感じのリノベーションかなと考えています。

【白井局長】

- ・ニュージーランドの陸上はホテルではなく、総合体育館のすぐ隣に隣接してある青年会館という民間施設に宿泊しました。そういった民間の施設も含めて考えないといけないと思っています。

【今委員】

- ・最終ページの記載内容に直結するのですが、今回どこまで考えるかだと思います。以前も申し上げたと思うのですが、佐賀市内に適切なホテルがあまりないので、その辺まで考えてやるのであれば悪くはない考えです。

【白井局長】

- ・ここに書かれてある管理棟の合宿所はどうあるべきなのかということと、それ以外のホテルなど全体的な宿泊施設については言われたように思います。

【坂元委員長】

- ・観るスポーツが最高峰のものを提供できるとすれば、佐賀で全国規模の大会を開催することが、ひょっとしたら足かせになることがあるということですよ。だから、ホテルまで考えなきゃいけないので、トップアスリートという表現はなるべく少な

くして、観るスポーツの部分で最高峰のゲームを提供できるという環境をしっかりと整えておいて、競技者と呼ばれる一流の者については、全国規模とか言わずにいけば、最後のページにある事業戦略で少しやりやすくはなるかという気はします。

【白井局長】

- ・ トップアスリートの表現は確かに整理しきれていなかったと思います。そのためにそういう表現になっています。

【坂元委員長】

- ・ トップ中のトップについては、アリーナを中心に観るスポーツを考えていきましょう。競技場については、全国大会は他に任そうじゃないかというぐらいのスタンスで、ただし、合宿所はスポーツツーリズムを推進するために十分なものを整備していくというスタンスでいいと思います。

【今委員】

- ・ 細かく言うと、本当の意味で育てるということであれば、ジュニアクラスがターゲットになるので、そうなると、要は三角形の頂点ではなくて、ボトムがだんだん下がってくるので、それはそれで意義があると思います。
- ・ ただ、代表クラスを呼ぶ、要は一定期間キャンプ地として招聘していくということは、ある種、シティセールスとしての意味合いが物すごい強くなるので、これ全く意味合いが違ってくるはずですが、でも、必要であることは必要であるでしょうから、レガシーとしてのアピール、情報発信としての重要性をどこまで考えるかという線を明確に引いておかないと、それもまた中途半端になると思います。

【坂元委員長】

- ・ トップアスリートという言葉は、やはり一番上層という意味合いが浸透していますので、例えば、ジュニアのトップの子たちが来て研さんを積んでいけるような、そういう施設ということで考えていくようなことで考えていきましょう。
- ・ トップアスリートという表現をちょっと抑えながら書き上げましょう。

【田部委員】

- ・ 13 ページの先ほど原田先生が指摘した一番上の文章ですが、3行目の「国体の後のレガシー」という言葉がちょっと引っかかっていて、レガシー自体が後に残すということなので、「国体のレガシー」でいいのではないかと思います。

【坂元委員長】

- ・ 3行目、国体の後のですね、はい、わかりました。

【田部委員】

- ・ 前のほうに一個あったと思います。
- ・ 加えて、14ページの真ん中の「再生可能エネルギーの活用などによるランニングコストの削減」とあるのですが、実際は再生可能エネルギーのほうがコストが高かったりすることもあるので、この表現は「環境に配慮した」という表現の方がいいかと思えます。30年、40年先のことを考えたら、これをやっておく必要は必ずあると思えますので、気は使いつつ、ランニングコストにはあまり言及しないほうがいいかなと思えます。

【坂元委員長】

- ・ はい、ありがとうございます。

【田部委員】

- ・ 19ページの(6)の①ですが、「周辺道路とのアクセス、施設内動線を配慮した施設の整備」となっていますが、施設内動線の話が全く書いていないので、施設内動線の配慮と書くのであれば文言を入れるなり、もしくは施設内動線という言葉が消すなりした方がいいかと思えます。

【今委員】

- ・ 動線という言葉が、「動く線」と「導く線」とありますが、その使い方が混同しているように思えます。例えば、19ページ(6)、①の中に出てくる動線というのはアクセスの問題なので導く線と思えます。

【竹原委員】

- ・ この施設をもしも運営する側になったらという視点で、コストセンターをプロフィットセンターにしようと思えば、14Pの「施設の利用者、運営者」が一番コアになってきます。
- ・ その関係で言うと19ページの「スポーツを行わない人でも憩い、集えるような施設の整備」、この内容はすごくきれいに見えるのですが、カフェとかスポーツショップ、これやっただうやって運営していくかは、国体のレガシーとして、また、あの地域がまちづくりの中でどういうコア施設になっていくかを考えると、もう一捻りして欲しいなと思えます。あまりカフェやレストランとかいう言葉に頼らずに、継続的に回収や成長していくことが必要と考えています。

- ・スポーツの合宿ではサッカーの合宿が一番ビジネスとして儲かると言われています。そう考えると、ここの中でそれを補える合宿所との連動を考えます。

【今委員】

- ・それは大正解で、だから誰が使うのかというのをぼやかさずに、もう少しターゲットを絞ったほうがいいと思います。

【坂元委員長】

そうですね。

【竹原委員】

- ・運営はNPOでもいいし、社団をつくってもいいし、県の外郭団体でも結構なので、最初に運営母体をつくっておかないと、絶対儲からないですよ。

【坂元委員長】

- ・先に原田委員からこの部分について、いい視点として話がありましたが、深く議論はしておりませんよね。そういう意味で、文章的には14ページの中段ぐらいで、あと33ページに本当に戦略的にここは大事だということを書いております。それを具体的にというところをどれだけ書くかというところにもなりますが、その点を原田委員に情報を共有するという意味で後ほどレクチャーをしてもらう予定です。
- ・文章上はどうですか、これぐらいでもう納めざるを得ないですかね。議論の経緯からすると、確かに、この経営の視点、もしくは展開、戦略、この部分についてもう少し書き及んだほうがいいのだろうという気はします。

【今委員】

- ・1ついいですか。先ほどの話に関連してきますが、エリア全体の人の動きというのは、シミュレーションしていかないといけないと思います。

【白井局長】

- ・今おっしゃったようなこととかの詳細は事業計画の中でやることであり、それは、基本計画をつくった後に出てくる話なので、具体的にそこまで、ここで記載するというのではなくて、例えば、そういう施設を目指して今後具体化していくというような表現になるのではと思います。

【坂元委員長】

- ・そうですね。

【今委員】

- ・コストセンターからプロフィットセンターになっていくんだということを触れないほうがいいのか、触れたほうがいいのかそこは最後ぶれてはいけないところです。

【坂元委員長】

- ・基本方針の中で、14 ページなどで簡単に言うておいて、基本方針の後の基本計画の中に少し具体化して潜り込ませるほうがいいのか考えたいと思います。

【東島委員】

- ・「支える側も楽しめる施設」ということで、「応援やスポーツボランティアを通じて運営を支えるなど、スポーツを支える楽しみを味わうことのできる施設」というのが整備に入っていますよね。
- ・18 ページには「運営を支えるスポーツボランティアなどが活用できる諸室を整備する」と、例えば、NPO 法人とかそういうボランティアの人たちの事務局とか、そういうのを入れていくというイメージですか。

【坂元委員長】

- ・ここではそうでしょうね。ただ、ボランティアを育成する事業というのも書き及んでもいいのかもしれませんが。

【東島委員】

- ・例えば、桜マラソンでは、神埼あたりで地域の婦人会が出てボランティアをやっているなど、非常に生きがいを感じている方が結構いらっしゃるようです。

【坂元委員長】

- ・そうですね、評価は高いですね。

【東島委員】

- ・この意味は何を指しているのかわからなかったので聞かせてもらいました。事務局を置くことによって意識を盛り上げていくという意味なのでしょうか。

【坂元委員長】

- ・ここはもう少しボランティアのことを書いてもいいかもしれません。

【東島委員】

- ・佐賀県体育協会のスポーツ会館には、競技団体が3つ入っています。そういうところの拠点になるようなことが可能なのか聞きたいです。沖縄は全競技の事務局が入っています。そういうことまで含めて考えているのかと思って聞いてみました。

【坂元委員長】

- ・国体の基本構想の中には、佐賀独自のおもてなしというキーワードが入っていますので、考えもいいのかもかもしれません。

【今委員】

- ・支える側も楽しめるという言葉はおかしいのではないですか。支える側が楽しめる施設って、ちょっとイメージわかりません。支える側も活用しえればいいのではないのでしょうか。

【坂元委員長】

- ・確かに違和感はありますね。少しボランティアの充実について記載しているところがありますので、そこを少し書き足すような方向で考えたほうがいいのかと思います。
- ・あと私の意見ですが、先日知事と会食する機会を得たので、このグランドデザインについて話をしたところ、知事も非常に注目されていました。観る施設についてはかなり意欲的ですが、加えて15ページの(3)にあるような普通の県民の方がたくさん行ける施設にして欲しいということは言われておりました。そういう意味で、馬場委員の提案にもありました、県民の人が木の下で休んだりするイメージというのは非常にいいアイデアと思っています。できれば16ページにでもこの写真を入れて欲しいと思います。
- ・他いかがですか。13ページから14ページについては、ほぼ全てが考えていますという文末になっていますが、よろしいですか。県民の方々から見ると、考えていますということはやらないのではないかと言われそうですが。全て考えていますという表現で終わっているので、実現しますぐらいの表現が1つくらいはあってもいいかと思っています。
- ・また何かありましたら意見をください。
- ・では、次は第4章の2のゾーニングところからチェックをかけていきたいと思えます。

【今委員】

- ・1点目、22ページの下から6行目、「メインアリーナのフロアは土間コンクリートとし」とありますが、これは本当ですか。

【坂元委員長】

- ・しない方がいいということですか。これは業者が入りやすいように考えられた結果だと思います。

【今委員】

- ・そうであれば、フロアがないので全国大会はできません。通常のスポーツ競技、まともなスポーツ競技もできなくなります。単年対応でプロ興行等をやる場合はフロアユニットを持ってくればいいのですが、必ず備品として持つことになります。ただ、それをその都度セッティングしないといけなくなるので、それを誰がやるのということを考えておかなければなりません。
- ・このアリーナが交流施設として稼働するなら問題はありません。ただ、先の文章を読むと、そうではないと思います。多目的利用を考えている施設でありながら、全国大会をやったり、コンサートを呼ぶことがあったりする。そうなるとうなるのでしょうか。そして、バスケットボールコート3面分といたら、3面のフロアユニットを常備しておく必要がでてきます。

【坂元委員長】

- ・そうなると大変ですね。

【今委員】

- ・1ユニット50平米で入るかぐらいの大きさですから、大変な面積になります。

【坂元委員長】

- ・趨勢はどういう感じになっていますか。

【今委員】

- ・ウッドフロアを常設するのが最適になります。その上には氷も敷けますし、今の技術では何でもできます。

【坂元委員長】

- ・土間コンクリートにするメリットというのは何ですか。

【今委員】

- ・要は、そこにトラックも入れるということです。それから、そこに展示会場として給排水の設備を設けて、展示会とか、火を使うこともできますし、そういったメリット

はあります。

- ・ただし、例えば、マリンメッセのような多目的な展示ホールをスポーツ興行に多用するという意味合いとは違うと思っていたので、どうするのでしょうか。間違いなく全国大会できません。その辺の発想が定まっています。
- ・これまで議論した中では、ここはあくまでスポーツということが前提にあり、それを汎用させて多目的に使用しましょう。多目的に使用する場合に、その上に氷も張れますし、その上の養生次第では、当然いろんなことができます。それは間違いありません。ただ、アメリカのスポーツアリーナのように、もともと土間が前提でスポーツフロアをセッティングするという発想ならば、今の日本の現状だと、使用用途が狭まります。
- ・それに加えて、施設管理者のノウハウと能力、労働力がかなり上がります。そこまで考えての土間コンクリートなのかどうかを聞きたいと思います。確かに多目的を考えるのであれば土間は使い勝手はいいです。それは間違いありません。
- ・ただし、マリンメッセのように、基本は展示会場とかで、そういう場所でたまに開催できるとか、そういったメリットはあります。スポーツをやるとすると、その上に養生して、バレーコート敷くぐらいです。そこを例えばということではなく断言していたので、確認した次第です。

【坂元委員長】

- ・局長いかがでしょうか、この表現は。

【白井局長】

- ・今おっしゃったように、どちらでもあると思います。

【坂元委員長】

- ・どっちも一長一短あります。

【今委員】

- ・もう一つは要望です。25 ページのテナント棟ですが、ここは集客機能の中心になると思います。非常に面白いと思います。ただ、ここが、適切な動線になり、多目的に使えるスペースになり、毎週のように何かイベントをやっているぐらいの稼働状況が再現できればいいなと思います。
- ・人はソフトの部分があってくるのであり、ただ単に店をつくったからとか、施設があるから人が来るのではないと思います。
- ・位置的に言えば、この場所の使い勝手でいったら佐賀駅前よりは素晴らしいものになると思います。佐賀市にお住まいの方はそう思いませんか。私は単純にそう思いました。佐賀駅前では何かするよりも、ここに来て一日いたほうが楽しいと思います。そう

考えれば、少しフレキシブルに利用できるスペースがあってもいいと思います。

【坂元委員長】

- ・この活用に関するソフトの部分について書き及ばなくてもいいですか。

【今委員】

- ・特に必要はありませんが、集客のためにはフリースペースを設けて最大限活用していくことは必要になります。

【坂元委員長】

- ・そうですね。ここは整備内容の記載をする場所なので、このままでいいとは思いますが。

【今委員】

- ・それから、もう一点だけ、ごめんなさい。
- ・再生可能エネルギーというのがありました。ランニングコストが減るとの話もありました。考え方としては素晴らしいと思います。ただし現実的に、特に屋内設備の場合ですが、再生可能エネルギーとか、ガスによる空調設備の稼働を導入すると、館内の機械設備のスペースは大きくなります。これはランニングコスト以前の問題です。これは、相当厄介な問題になります。
- ・それから、建築費としても相当な設備投資になると思うので、その辺との兼ね合いでコスト面を考えてください。

【坂元委員長】

- ・あまり前面に出さないほうがいいということでしょうか。

【今委員】

- ・どう考えるのかによります。理想は、理想でいいことではあります。

【坂元委員長】

- ・省エネという言葉ぐらいにして、あまり前面には出さないほうがいいかもしれないですね。
- ・貴重な意見ありがとうございます。そこは検討することになるかと思います。他いかがですか。

【原田委員】

- ・先ほどの土間コンクリートの意見ですが、23ページの図にあるような使い方は土間コンクリートの使用イメージ図ですよね。
- ・例えば沖縄市が1万人のアリーナをつくっているのですが、これはNBC仕様で土間コンクリートになっています。それは多目的利用だからです。
- ・今回のアリーナがどこを狙うのか。体育館的アリーナなのか、エンターテインメントホールとしてのアリーナなのかという話になります。
- ・収益性を考えると、やはりエンターテインメントアリーナの土間コンクリートがいいと思います。
- ・バスケットボール3面とあるのですが、これは常に3面バスケットボールで高校生が試合やっているようなイメージだとちょっと違います。そうすると、ウッドフロアのほうがいいと思います。そうすると、収益性というのはあがらない体育館になってしまいます。そこは佐賀県がお決めになればいいと思います。ただ、将来的に何らかのプロ興行、あるいは展示会も使おう、そういうことを考えると、土間コンクリートのほうがいいです。非常に使い勝手がよくなります。

【坂元委員長】

- ・まだこの段階では断定はしないほうがよさそうですね。

【原田委員】

- ・ええ、御検討いただければいいと思います。

【坂元委員長】

- ・あとは、東島さんが競技団体を説き伏せてくれるかどうかということにかかってくるかもしれないです。

【今委員】

- ・少し心配しているのは、プロ興行といっても、1年52週のうち半分もないはずですよ。また、県の施設ということもあります。1万人から2万人弱のアメリカの大学のアリーナは下がウッドです。通常は3面、4面利用しています。そういうこともあるのでどう活用するのか考えることは必要になります。

【白井局長】

- ・このことはここで断言するようなことはなくても構いません。むしろプロフィットセンターとなるためにどうすべきか、県民の利用も考えながらどうすべきかを色々考えていきたいと思います。

【坂元委員長】

- ・それがいいかもしれません。

【白井局長】

- ・実施設計までにつめていきたいと思います。

【今委員】

- ・例えば、サーカスなどの興行も考えられて持ってこられる状況にあるのであれば土間になります。沖縄の場合はそうです。沖縄はもともとフロアユニットを持っています。彼らがセッティングする分には全く問題ないです。その辺の考え方、方向性が決まれば全然問題ないです。

【東島委員】

- ・土間コンになるとフロアは可動式になるのですか。

【今委員】

- ・いいえ、可動式ではありません。

【東島委員】

- ・フロアを重ねて使うということですか。

【今委員】

- ・一回一回並べることになります。

【東島委員】

- ・そうすると、ラインはどうするのでしょうか。

【今委員】

- ・ペイントされたフロアユニットをセッティングしておくか、ラインもなしの状態で行うかになります。

【東島委員】

- ・競技ごとにラインの指定というのはあるのでしょうか。

【今委員】

- ・ そうです。

【東島委員】

- ・ 恐らく多目的に使えるということで、土間コンクリートの話があるんでしょう。

【今委員】

- ・ 趣旨と目的があって柱がきちりしていれば問題ないです。その最後の最後ついてくるのは運用者の問題と思います。

【坂元委員長】

- ・ はい、わかりました。少し検討が必要なようです。ありがとうございました。

【東島委員】

- ・ ちょっと話は変わりますが、国体のことを考えて言うと、冬季国体のアイスホッケーチームは久留米に行って夜の9時から12時まで練習をしています。以前は佐賀市内にスケートリンクがあって、そこで練習ができていました。
- ・ 例えば、冬季になると50m プールがアイスリンクになるところもあります。予算の兼ね合いになってきますが、そのようなことは考えられないでしょうか。

【今委員】

- ・ フロアだろうが土間だろうが、アイスリンクつくるのは簡単です。

【東島委員】

- ・ そうですか。

【今委員】

- ・ はい。ただし、アイススケートで使用するとなると一定期間利用が必要になるので、プロスポーツ興行が入るのであれば、ちょっと難しいと思います。
- ・ ただし、これはスケジュールのコントロールでどうにかできるのであれば、この期間はアイスリンクをセットしてアイスホッケーの強化に使うということも考えることができます。そうであれば、2～3週間氷を張ったままにするというのは簡単にできます。

【東島委員】

- ・それともう一つ、庭球場の面数が増えるということは非常にありがたいと思っています。また、テニスの国体基準には書いてありませんが、特定の期間の中で大会を開催する際に雨や台風のような状況も考えられるので、室内の4面も考えていただければありがたいです。

【坂元委員長】

- ・その部分についての文章は検討させてください。
- ・次は第5章のほうに入りましょう。
- ・ここで、33ページについて原田委員から補足説明をしていただきたいと思います。よろしくをお願いします。

【原田委員】

- ・補足資料を御参照ください。
- ・まず、「スポーツによる地域活性化を担う地域事業者について」、これはスポーツ庁で昨年、議論を重ねました。要は、総合型地域スポーツクラブがたち行かなくなっている現状を踏まえ、地域スポーツを支える、そういう事業者を考えていこうという、そういう検討会議です。
- ・3つの組織がある種のベンチマークになります。紹介するのは出雲スポーツ振興21、スポーツコミュニティ軽井沢クラブ、掛川市体育協会、これはいずれもNPOです。職員もかなりの人数を雇っています。
- ・施設の管理の多くは指定管理者ですが、スポーツ振興21は、3年、5年、8年ごとに入札がある指定管理者制度は大変だと思い、制度自体のあり方も考えつつ勉強をしていき、その結果、スポーツではない領域に踏み出しスポーツ外の人々とも連携、協力していくことが大事だろうと考えました。観光資源がなくても、スポーツイベントというのはゼロからつくれるので、これを新たな収入源としました。
- ・その下に書いてありますが、スポーツ庁で考えている地域活性化を担うハイブリッド型事業者のことで、色々なところでお金を稼ぎながら、独立した事業の展開をしていきたいと思いますという考え方です。左側、マーケット①の地域内の住民からの収入、これはスポーツ教室になります。行政からの収入は指定管理料とかさまざまな補助金、あるいは学校授業の支援になります。ひょっとしたら、学校の運動部の取り扱いもするような組織になる可能性もあります。
- ・あとは、企業、団体からの収入で、協賛金とかネーミングライツも可能性もあるということです。
- ・右側は、地域外です。外から持ってくるお金で、これはスポーツツーリストの誘客、イベントの開催、合宿誘致、大会の誘致などツーリストからの収入で、ここに合宿に

来る人たちからの収入、イベントの事業収入、あるいは物販収入、こういうものが入ってくるということになります。

- ・掛川市の体育協会は、実際に掛ツアーと言って旅行代理店業務、掛川市に来る合宿全部を体協がやっています。このNPOは、本来は補助金で運営される体協の収入です。いろいろと面白い事業をやっています。その結果どういことが起きるかという、その組織の価値というのが、スポーツを核に複合的に事業を展開し、自主財源を確保して地域住民に求められる公共的なスポーツサービスを提供して、地域への経済効果も創出して地域に不可欠な事業体となります。
- ・今日の会議では施設運用の話が多かったのですが、こういうハイブリッド型事業体があれば、コストセンターをプロフィットセンターにできるのかと思います。
- ・次のページは、左側がインナーで右側がアウターになっています。これはどういうことかという、左のスポーツ振興部門というのはインナーの政策で、地域スポーツの振興になります。青少年の健全育成もあるし、地域のスポーツ大会もありますが、ここは余り収益には関係ないところになります。
- ・右側がアウターの政策になります。観光マーケティングとか交流人口の拡大というような、スポーツイベント、合宿の誘致開催、そのお金を持ってきて、うまく回せないか、それがスポーツ都市戦略のほうにつながっていくんじゃないのかというように考えています。
- ・その下は、一つの事例ですが、今度J1に入るセレッソ大阪が長居公園という非常に広大な公園の指定管理を受託するということになりました。そうして例えばビールの値段を下げるとか、いろんな施策を展開しながら、あるいはイベントをしながら、大阪市のスポーツ振興をここでやっていこうとしています。もちろん、試合もやりましょうというような新しい動きも出ています。
- ・次のページに行きます。ここに例示しているのは舞州アリーナという、100%コストセンターだったアリーナになります。大阪市が埋立地につくった施設で、1997年国体の前年に完成し、2008年のオリンピックでのハンドと卓球会場にしようとしたのですが、これが見事に失敗しました。その後、ミスノグループが指定管理者となったのですが、アクセスが悪く利用者も少なく、大阪市のコストセンターになりました。スポーツアイランドとは名ばかりで、港湾局は活用に四苦八苦していました。実は私もこの活性化委員会の委員長を2期やって考えましたがうまくいきませんでした。
- ・そうしているうちに事情が大分変わってきまして、2015年8月1日、ある大阪エヴェッサというプロチームを持っているヒューマンホールディングスという会社が、この受託権、コンセッションを得ました。するとすぐに、「府民共済SUPERアリーナ」というネーミングライツをとるなどの収入に結びつきました。
- ・その下に行きますが、2015年1月30日、施設をもてあました港湾局が活発に動いて売却したいという話をしたのですが、ヒューマンは買うのは無理だから貸してくれと

いう話になりアリーナの貸し付け事業者に決定しました。2015年4月から定期建物賃貸借契約を締結しています。ある種のコンセッションをやっています。

- ・ そうしたところ、初年度でブレイクイーブン、今年度は2年目で黒字化の目途がついています。
- ・ これ以外に、舞州球技場、ロッジ舞州、舞州アリーナなどの施設に毎年指定管理料がかかっていたのですが、プロフィットセンターに姿を変えて、現在、港湾部に収入が入る、そういうスキームに変わっています。
- ・ 今月の2月5日の対栃木戦では、ここに7,524人の観客動員数を記録しています。
- ・ 下に書いているのが、公共のコンセッションになります。
- ・ 次のページ、最後のページをみますと、その舞州アリーナの横に、これは非常によかったのですが、オリックスの2軍練習場ができました。もともと舞州野球場を朝日生命が使っていたのですが、一般競争入札で貸し付けたということです。舞州野球場に加えて、舞州野球場北西用地に新たに硬式野球場などを一体的に活用することができて、周りに倉庫群ができました。そして今度は閉鎖されていたアリーナのレストランがオープンし利用者が出てきました。それをまとめた話を下記載しています。特殊事例といえば特殊事例ですが、アリーナがあって、そこにBリーグというコンテンツが入って、その施設をアクティベートすると、非常にいいことが起きることになります。おそらくはスポーツで稼いだお金は2割前後となるのかなと思います。8割前後はさまざまな催し物に賃貸をしたり、あとコンサートが多いですね、コンサートに貸したり、あるいはスポーツと言えば体操の会場に貸したりとかをやっています。大事なのは、それを専門にする事業者がいるということと、そのコンテンツです。Bリーグの試合があって、毎回一定の集客が見込まれるというようなことと、あとは、ここを賃貸借契約した大阪市の英断といいますか、それによって、もちろん土地と建物は大阪市が所有しながら年間の契約を結んだことです。
- ・ 私もこの経営をいろいろとアドバイスをしているのですが、やはり合宿所をつくらうという話になっています。というのは、右側にUSJがありますので、そこにどんどんお客が来ています。左の下にロッジ舞州って施設がありますが、ここはすでに売却しています。姫路市のキャピタルホテルというところが買って、1年目からすごい黒字出して、新しく棟を建てるという話になっています。中国人のお客さんがここに入ってきているので、舞州アリーナにもつくらうという計画になりました。ちょっと10年の期間では難しいなどは思っています。だけど、20年、30年をコンセッションだと考えられるということになると、やはり合宿というのはキャッシュフローする非常に重要な要素になります。
- ・ ちょっと散漫な話になりましたが、スポーツ庁で説明した資料になります。
- ・ 最後にもう一点だけ、今、国ではスポーツ基本計画をつくっているのですが、パブコメも終わって昨日取りまとめを行ったのですが、プロスポーツというのが完全に抜け

ていたので、これを入れようということになりました。総合型クラブ及び地域スポーツコミッション等においてプロスポーツや企業との連携により、収益事業の拡大を図り、スポーツによる地域活性化を持続的に構築するというのが要望の中に入りました。

【坂元委員長】

- ・ありがとうございました。33 ページの最後の部分については、新しい概念も出ております。こういう好事例を皆様と情報共有しておいてくだされば、これから実行部隊に移るときに、いいアドバイスができるのではないかと思います。そこを含め、この第5章で意見がありましたらどうぞ。
- ・局長、この30 ページの整備イメージ図、市の文化会館と駐車場を共有できるという前提でもう1つブリッジがかかるイメージ図は作れないですか。

【白井局長】

- ・これはまだイメージ図ですので、このように書いておりますが、佐賀市さんとの協議をこれからやっていきたいと思っております。お互いに協力したいと思っておりますが、今のところまだなので、このようにしています。

【坂元委員長】

- ・まだ描けるようなレベルではないということですか。

【白井局長】

- ・今はそうです。そういうことが可能になれば、色々なことがわかってくると思います。

【坂元委員長】

- ・ここに1つ、アリーナをちょうど結ぶ動線があると、イメージとしては非常にいいかなと感じてはおります。わかりました。
- ・ほか、よろしいですかね、この最後の32、33 ページあたりは。

【原田委員】

- ・建築コストとメンテナンスのことですが、仮に建築費に100億円かかれば、生涯建築コストは3倍の300億ぐらいかかることとなります。100億円を償却するのは難しいので、残りの200億円をこの施設が稼ぐとなると何年かかるかわかりません。40年、50年ぐらいだと思うのですが、その生涯コストのうちの3分の2をここから稼ぎ出すことを考える必要があります。だから、コンセッションの一番大きな目的は、とりあえず黒字を出して、何年かに1回の大規模改修の費用をそこでためるということとなります。そうすると税金を使わずにこの施設を運営していくこととなりますので、事

業力を持った経営母体が必要かなと思いますし、ネーミングライツも使えるようになります。

【坂元委員長】

- ・そこあたりは、他の基本構想あたりは書き及んでいませんか。例えば黒字化を実現するなどの記載は必要ありませんか。

【原田委員】

- ・黒字化というのはなかなか難しいので、そこまで書く必要はないと思います。
- ・書いたとしても収益力のあるとかですかね。収益性に配慮した運営スキーム、ビジネススキームをつくっていくというような、そういう表現ぐらいだろうと思います。

【坂元委員長】

- ・ありがとうございます。このあたりは書けるようだったら検討したいと思います。
- ・よろしいでしょうか。
- ・この計画は今後議会に諮り、そしてパブリックコメントで何か意見等とか出てきた場合には最終の会議でまたお諮りすることにはなろうかと思います。
- ・局長、何か最後にございますか。

【白井局長】

- ・ありがとうございました。第1回目から本当に筋書きのないドラマがずっと、毎回毎回展開しておりまして、私どもも、毎回毎回本当に目からうろこのいろんな御意見を頂戴しております。今回もいただいた御意見を整理しまして、そして、県議会のほうにお示しをしていきたいなと思っております。
- ・新しいスポーツ基本計画など、生々しい情報もいただきましたけれども、そのような国の動きにも敏感に反応しながら、そのモデルケースとなっていけるような施設を目指していけたらと思っております。
- ・この計画は、整備の考え方のベースとなるものでございまして、これから県議会での審議、それからパブリックコメント等々で御意見踏まえ、また改めてさらに加え、そして考え方のベースをきちんとつくっていきたいと思います。
- ・次は最終回になります。また御意見をこの場でちょうだいしたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【坂元委員長】

どうもありがとうございました。これで閉じさせていただきます。